



試用
レポート

フォトラマ FP シリーズが使える ホルガロイド

日比野 和範

熱狂的ホルガファンから、熱い支持を受けている HOLGA120 シリーズ用インスタントフィルムホルダー「PolgaSun4」は、本年2月の米国ポラロイド社によるフィルム生産終了告知に伴い、「もうインスタントフィルムでは撮れなくなるのでは？」という声が出ていた。しかし、愛用者の期待を裏切らないのが、ホルガの輸入販売を手がけるエー・パワー。

このたび、富士フィルム製インスタントフィルム「フォトラマ FP シリーズ」のレギュラーサイズ (7.3 × 9.5 cm) が使えるように改良を加えたホルガ 120 本体とカメラ・ホルダーセットを、Holgaroid (ホルガロイド) と銘打って新発売した。

ホルガ本体は、従来製品のポルガサン4セット同様に、なんの加工もしていないので、このホルガロイドセットでも裏蓋を交換すれば、ブローニーフィルムで撮れるというトイカメラ初のデュアルフォーマットカメラというコンセプトは変わっていない。

なお、ホルダー自体も富士フィルム製 OEM カメラバック PA-1 を使用しているため、フィルム、ハードともに長期的供給が期待でき、長年にわたってホルガロイドライフを楽しめそうだ。

ホルガロイドセットの種類と特徴

新登場のホルガロイドセットには、ホルガロイド GFN セットとホルガロイド GCFN セットがあるが、おのおのの違いは、カメラ本体がホルガ 120GFN かホルガ 120GCFN の違いで、同梱されているホルガロイドホルダー、フジ FP-100C フィルム、フジ PRO400H フィルム、アルカリ乾電池などの付属品は共通である。

ホルガ 120GFN とホルガ 120GCFN の違いは、内蔵フラッシュの違いのみだが、ホルガ 120GCFN の内蔵フラッシュは、通常撮影のフラッシュ光のほかに、フラッシュ上部のセクターレバー突起部を回すことで、赤・黄・青色のフラッシュ光を放つことができ、色遊び効果を狙った幻想的な写真を撮ることができるのが特徴だ。

ホルガ 120GFN とホルガ 120GCFN の価格差はわずかで (約 1,000 円程度)、カメラの高さもセクターレバー分の 1 cm 程度出っ張るだけであるため、ホルガ



ホルガロイド GCFN セットとフジフォトラマ FP-100C フィルム
画面サイズ：本体；6 × 4.5 cm 判フレームおよび 6 × 6 cm 判対応。ホルガロイドホルダー装着時は、8.3 × 8.6 cm フォーマット (実画面サイズ：6.9 × 7.2 cm)。レンズ：60 mm F8 レンズ (ホルガロイドホルダー装着時は、専用補正レンズ併用) 絞り：F8 固定 シャッター：1/100 秒固定 内蔵フラッシュ：GN12 (ISO100)、単3電池2本使用 大きさ・重さ：134 × 130 × 158 mm、555g (ホルガロイド装着時) 102 × 76 × 140 mm (、240g カメラ本体のみ) いずれも、突起部を除く大きさ 価格：ホルガロイド GFN セット ¥23,100。ホルガロイド GCFN セット ¥24,150。ホルガロイドホルダー単体セット (折りたたみ式スポーツ・ファインダー付き) ¥13,650 (ホルガロイドホルダーは、ホルガ 120S/SF/N/FN/CFN/GN/GFN/GCFN/PC、WOCA120G/GF の計 11 種に対応) 発売：エーパワーネット直販 (<http://www.doctor-and.com>) 他

120 の遊び心を楽しむためには、ホルガ 120GCFN セットはお買い得である。

両セットに共通のホルガロイドホルダーは、ホルガロイドセットに同梱のフジ FP-100C カラーフィルム (ISO100) のほかに、フジフォトラマ B & W フィルムの FB-100B (ISO100)、400B (ISO400)、3000B (ISO3200) が使用できるため、仕上がりの美しさ重視で低感度フィルム、粗粒子効果や夕刻のレトロな印象の撮影に高感度フィルムなどと、フィルム使い分けによる作品作りも楽しめそうだ。ホルガロイドホルダーで撮影する場合は、同梱の補正レンズを装着しての撮影となるため、スクエアな画面の四隅に若干のケラレが生じるが、これもホルガファンの間では、レトロな写りのムード演出のできる、このカメラ独特の仕様として受入れられ、作画作りによく活用されている。この四隅のケラレも、作品作りの味として、うまく活



【レトロな街なみや光景を写す】どことなく懐かしい脇道や静肅な空気が立ち込めた神社の社殿や、さりげない風景を、このカメラで撮ると、時間の流れや、懐かしさのある空気感までも写し撮れてしまいそうなのが魅惑的だ。
フジフォトマ FP-100C フィルム、F8・1/100秒、ホルガロイド GCFN セット使用（共通）



【モダンな街なみをスナップする】若者たちが賑わう、鮮やかな色彩があふれる街角を、このカメラで撮ると、ポップで楽しい写真に仕上がる。四隅のケラレには、その世界を覗き込むようなフレーム効果があって興味深い。
フジフォトマ FP-100C フィルム、F8・1/100秒、ホルガロイド GCFN セット使用（共通）

用した作品作りを楽しみたい。なお、ホルガ 120 単体にプロローニフィルムを入れての通常撮影では、補正レンズを使用しないため、四隅のケラレは生じない。

フォトマ FP シリーズで写すホルガロイドの味

ポラロイドの色は、昨今のデジタルカメラやフィルムでは出せない不思議で懐かしい、くすんだような独特な味のある色調が人気であったが、ホルガロイド 120 にホルガロイドホルダーとフォトマ FP-100C による撮影では、ポラロイドで撮影時の色調に比べ、色がこってりした作品が撮れている感じだ。これは、フジインスタントカラーフィルム(フォトマシリーズ)が、インスタント写真を超えたインスタント写真をコンセプトに、色の鮮明さと自然な再現、階調の豊かさとシャープな画像再現を追求し開発されたフィルムであるため、ホルガロイド 120 との組み合わせで、よりポップな印象の色調での作品撮りが可能になったものと思われる。

なお、お買い得なホルガロイド GCFN セットと GFN セットには、フォトマ FP-100C の海外版パッケージが同梱されてくるが、発色特性などは国内向けのフォトマ FP-100C とまったく同じ製品である。またセットパッケージに 1 本同梱されているプロローニフィルム・フジカラープロ 400H は国内未発売の海外向フィルムで、やや青みかかった低彩度で優しい色調が特徴のフィルムであるが（国内向けは、フジカラープロ 400（プロ 400N））、富士系プロラボでプロ 400H 指定のプリント処理をしない限りは、国内向けのプロ 400N 同様のフィルムとして処理されるようだ。なお、このパッケージに同梱のプロ 400H が在庫切れの場合はプロ 160S（プロ 160NS の海外版）が 1 本同梱されてくるとのこと。プロ 400H、プロ 160S は、正規ルートでの国内販売はないが、エーパワーでは、同フィルムの輸入販売も行っているため、興味ある方は、同社 Web ページを参照いただきたい。<http://www.doctor-and.com/>